

# 目 次

## 1. 令和5年度 事業報告

(1) 事業概況…………… P

### (2) 参考資料

① 事業実績報告書 …………… P

② 行事・会議・研修参加状況 …………… P

# 1 令和5年度 事業報告について

## (1) 事業概況

母子生活支援施設の多機能化・高機能化を目指し、令和5年度より親子支援事業及び妊婦訪問支援事業をスタートした。相談件数は想定より少なかったが、必要とされる世帯のニーズを把握でき、世帯に沿った支援を提供できた。

また、令和5年5月、新型コロナウイルスが感染症法5類に分類された事により、施設行事を再開した。令和5年9月に「ももち秋祭り」、12月に「餅つき大会」を実施した。施設利用者や退所者、地域の関係機関なども交えて実施した事で、利用者同士の交流や退所者と繋がる事ができた。

### ① 事業活動について

#### ア 管理運営について

##### 全体

(ア) 協議会等が開催する事業、研修会等については参集型、ウェブ研修を併用し参加した。職員会議や自立支援会議のほかに、施設内研修を年4回実施した。CAP研修や事例検討を行い、支援内容や支援方法・利用者への理解を深めた。

また、令和5年度は第三者評価を受審した事により、職員の意識改革を図るとともに、自分たちの課題と問題点を把握できた。

(イ) 令和5年度、自立支援担当職員の配置ならびに親子支援事業がスタートし、進学相談や転居先の情報提供、物資提供及び自宅訪問を実施した。自立支援事業は、92名に延596件実施、親子支援事業は、20名に延157件実施した。また、親子ショートステイの利用は、2世帯4名（合計延日数9日間）であった。

ふくおかライフレスキュー事業における定期連絡会に参加し、地域の生活課題やニーズ把握に努めた。今後も事業への積極的な参加を目指して行く。

(ウ) NPO法人等と連携を図り、支援物資の受け入れを積極的に行い、施設利用者や退所した世帯を中心に物資提供を行った。退所世帯で関りが希薄な場合は、細く長い支援を継続できる様に自宅訪問を行った。

(エ) 施設内における事故防止のため、巡視の強化(日に2回の巡視や確認事項の細分化)を行い安全対策に努めた。また、ヒヤリハットを職員会議で周知し施設内におけるリスクマネジメントに努めた。

## 百道寮

- (オ) 令和5年度当初は15世帯（定員20世帯）でスタートした。年度中に6世帯が入所し3世帯が退所した。平均入所率は85%であった。
- (カ) 令和5年度の緊急一時保護は8世帯17名（合計延日数105日間）で、緊急避難的要素を持った母子世帯及び単身女性の利用であった。緊急一時保護の内DV被害者等自立生活援助事業へ移行したケースは7世帯16名で、利用時には、本人の同意のもと自立支援、定着支援それぞれの支援計画を策定し、関係機関と連携を図りながら安心した地域生活に向け自立・定着への支援を行った。

## こももティエ

- (キ) 「福岡市妊産婦等相談・生活支援事業」については、年間新規相談受付件数は428件（電話相談90件・メール相談62件・LINE相談276件）であった。相談窓口についてはホームページやSNSを開設し事業の周知を図るとともに、研修を重ねることで職員の資質の向上に努めた。  
居住支援については5件の利用があり、住まいの提供や育児・生活支援を実施した。内2件が母子生活支援施設に、2件が地域生活に移行し、1件が継続中である。
- (ク) 妊婦訪問支援事業においては、9世帯に延22回、受診同行ならびに家庭訪問を実施した。

イ. 利用者を対象とした支援について

## 全体

- (ア) 利用者の抱えている問題や悩みを一緒に考え、必要に応じて就労や生活支援を行った。また、継続的な支援が必要な家庭においては各関係機関と連携しネットワークの形成を図った。母親の若年化や特定妊婦、心身に障がいのある利用者が増えるなか、日常生活や養育が困難な利用者に対しては、利用者同意のもと居室に入っての家庭支援や健診・通院手続き関係の送迎や同行を実施した。  
また、自立支援会議や担当者会議を実施する中で職員間の情報共有と連携を深め支援の向上に努めた。利用者にとって「安心した生活の場」であるために利用者との信頼関係の構築を目標とし、また新しい生活様式の中で日常のきめ細かなふれあいを大切にし情緒の安定を図った。
- (イ) 就労支援の充実のため企業等と連携し、個々の能力や状況に合わせた就職先を提供した。

## 百道寮

- (ウ) 学校と定期的な連絡会を実施し意見交換をした。支援が必要な世帯については、母親、学校、施設の三者で情報交換を行った。学習室では、児童の権利を尊重し意見箱を設置し意見の回答を子ども用掲示板等で行った。
- (エ) 個々の能力に応じた学習目標を設定し、毎日の自己学習時間に加え、個別学習の強化に努めた。中高生に小学生帰宅後の学習室や面談室を開放し学習ができる環境作りと、必要に応じた個別学習指導を行い、学力向上へと繋げた。  
また、前年度までは各学期初日に、スムーズに登校できるよう小学生以上の児童を対象として朝食提供を実施していたが参加者が少なかったため、令和5年度は昼食提供に切り替えたところ約8割の子どもが参加し、退所者や地域の子どもも参加した。
- (オ) DV・虐待等による心的外傷の回復のため心理療法を必要とする利用者に、心理療法担当者を配置し、プレイセラピーやカウンセリングで利用者の精神的安定を図った。また、生活場面においても常勤の心理士がより生活に密着した形での心理的支援を実施した。その他、希望する退所者にも心理療法を実施する事で退所不安への心的ケアを行った。
- (カ) 外部専門家との協働により、幼い子どものこころや行動の問題・育児不安を抱える母親へ、グループPCIT (G-PCIT) を実施した。また、居室清掃や整理整頓・調理指導など世帯に応じた訪問型支援を行うとともに安心・安全な居住空間づくりに努めた。
- (キ) 食育に関しては、旬の食材を実際に触れさせ口にする機会を増やすことで、食への関心や物を大切に作る気持ち作りへと繋げた。また、乳児子育て中の母親を対象に、離乳食教室を開催した。

## こももティエ

- (ク) 令和5年度は専用母子室を4室に増室し、支援を必要とする妊産婦を受け入れた。夏期は満室となりしかも出産時期が重なることもあったが、各々の利用者に必要な支援の提供ができた。
- (ケ) 産後2か月間の食事提供を実施した。調理員の勤務の関係で食事を作れない日は冷食の弁当を提供した。
- (コ) 妊婦訪問支援事業について、各区からの依頼は3件に留まった。区への事業

の周知につき、主管課と相談のうえ検討が必要である。また、民間ならではの実施方法についても引き続き検討したい。

## ② 関係機関とのネットワーク構築について

多岐にわたる関係機関との細やかな情報共有及びネットワーク構築に努めた。また、当施設の特性及び新規事業（親子支援事業に妊婦訪問支援事業）についての社会資源の開拓や訪問・啓発活動等を行った。

## ③ アフターケアについて

退所前計画を作成し、退所後に母子が地域で安心した生活を送る事ができるよう、必要な社会資源に繋いだ。関係機関と退所前協議を行い課題や必要な支援について共通認識をもち、退所後も地域で母子を見守るためのネットワークを構築した。

退所者専用の SNS アカウント「コネクトももち」を開設し、寄贈品や施設行事、その他福祉サービス等の情報提供を行った。継続した関わりが必要な世帯には訪問や電話面談、関係先への同行等、退所後の地域生活が定着するための支援に努めた。また、必要に応じ子の進学や就職に関する助成などの情報提供を行った。

## ④ 地域との交流について

ア. 登校時の見守りを実施するとともに、校区資源回収を中心に地域貢献に努めた。また、地域団体に集会室の貸出を行い、母子生活支援施設に対する正しい理解・認識の促進を図ることで地域に密着した施設作りに努めた。

イ. 小・中学校、保育園との連絡を密にし、児童の健全育成、母子福祉の向上に努めた。

ウ. ふくおかライフレスキュー事業における定期連絡会に参加し、地域の生活課題やニーズ把握に努めた。今後も事業への積極的な参加を目指して行く。

## ⑤ ボランティアについて

今年度より、ローターアクトクラブと学習室の交流が再開し、マリンワールドの招待を受けた。交流を通して地域の大人との健全な関係を築く事ができた。

## ⑥ 防災訓練強化について

新型コロナウイルスが感染症法の 5 類となったことで、火災や災害に備えた定期的な訓練を利用者と一緒の実施した。また、全職員に A E D の講習を実施した。

⑦ 施設の維持補修について

ア. 西棟集会室床及び倉庫扉の修繕工事

集会室の床及び倉庫の扉が経年劣化により破損していたため工事を実施した。

イ. 西棟パッケージエアコン洗浄

集会室・学習室・事務所のパッケージエアコンの洗浄を実施した。

(2) 参考資料

① 令和5年度事業実績報告書

② 年間行事/会議・研修実績